

夏休み4日間にわたり行われた随時研修の内容をまとめました。研修に出られなかった方、確認したい内容等ありましたら、自活部の中の「O2 研修企画推進」に資料がありますので、ご活用ください。

「摂食嚥下機能の理解と支援」

岩手医科大学 歯学部 熊谷 美保 准教授

摂食嚥下機能の発達について、食べる力がどのように育っていくのかを丁寧に説明していただきました。また、発達段階ごとの観察の視点や、それぞれの段階に応じた具体的な支援の在り方について学ぶことができました。児童生徒一人一人がどの発達段階にあるのかを見極め、「今できること」を伸ばしていくことの大切さを改めて理解することができました。

さらに、本校の生徒3名を事例として、食事場面の動画を見ながら、口唇閉鎖の様子や食物の取り込み方、舌や顎の動きなどの観察ポイントについて具体的にご指導いただきました。また、それぞれの生徒に対する支援方法についても助言をいただき、これまでの支援を振り返り、今後の支援の在り方を見直す良い機会となりました。

「肢体不自由・知的障害の重度障害のある子どものコミュニケーション支援

～支援につながる見立ての視点～ 岩手県立療育センター 言語聴覚士 佐藤 喜代氏

コミュニケーションの見立てについて、言語力（理解、意味・考えの組み立て）、伝える手段（話しことば、表情・視線、シンボルなど）、伝えあう働き（要求、拒否、質問、報告、叙述など）の3つ視点に整理しお話しいただきました。担当している子供のコミュニケーションの力を3つの視点で捉えると、どのような支援が必要かより明確になることが分かりました。

講義の最後にはモデルケースを用いて、実態把握から見立て、支援の内容まで詳しく教えていただき、より具体的にコミュニケーション支援について考えることができました。



「肢体不自由のある児童生徒の感覚運動遊び～遊具を使って～」

一般社団法人アクティビティいわて アクティブキッズ 作業療法士 三上 詩織氏

自立活動室にある様々な遊具を活用した指導事例を、活動のねらいに応じた遊具の活用方法や安全面も踏まえながら、実践を交えてご紹介いただきました。遊びの中で得られるさまざまな感覚刺激が、姿勢や身体の動きだけでなく、情緒の安定や注意・集中、人とのやり取り、自発性や主体性などを引き出す効果があることを学びました。子どもによって心地よいと感じる刺激や苦手な刺激が異なるため、一人一人の反応を丁寧に観察しながら活動を進めることの重要性について実感し、感覚運動遊びの意義について理解を深める機会となりました。

「重度重複障害児の呼吸ケア」

マリオス小林内科クリニック リハビリテーション科長 中田 隆文氏

普段の呼吸がどのようなメカニズムで行われているか、呼吸不全とはどのような状態か、脳性麻痺をはじめとした肢体不自由の原因疾患や呼吸不全の原因とその対応について、大変分かりやすく御講義いただきました。また、7月に改訂された医ケア児ガイドラインについても触れていただき、人工呼吸器や排痰補助装置について、解説をしていただきながら実物に触れさせていただくという貴重な機会をいただきました。

学校生活や学習活動の中で、たくさん笑う、泣く、歌う、吹く活動など、ぜひ内臓（肺）も育ててくださいと我々に期待することも具体的にお伝えいただきました。

